



不登校の子どもたちに居場所や学びの場を提供するフリースクールを支援する

三重県遊技業協同組合 「不登校児童が通うフリースクール『三重シュレ』支援」事業



三重県遊技業協同組合
理事長
権田 清さん

選考理由

この事業は、様々な理由で不登校となった児童・生徒の居場所を提供するフリースクール「三重シュレ」への多面的な支援で、2003年の同施設開設以降続けてきた施設借り上げの全額補助に加え、2016年からは経済的に困窮している児童・生徒への返還義務のない奨学金の授与を実施するなど、優れた社会貢献である。2019年には、株式会社伊藤園と協力して災害対応と寄付の二つの目的を持つ自動販売機を設置したことは、マスコミからも注目を集めた。この事業は、国連のSDGs（持続可能な開発目標）の「誰ひとり取り残さない」という理念にも合致するものであり、大賞に真に相応しい取り組みである。関係者のご努力に敬意を表し心から祝意を表したい。

社会貢献活動審査委員会
委員長代行
野口 昇氏



三重県津市にあるフリースクールのビル家賃を2003年から全額支援

いじめ、馴染めないなど、様々な理由や事情で正規の学校に通えなくなる子どもがいる。以前であれば、そうした子どもたちは引きこもり、不登校児童・生徒と見なされ、ほとんど行き場所がなかったが、最近ではそうした子どもたちを対象に、学ぶ権利を保障したり、安心して過ごすことができる居場所を提供する民間機関や施設として「フリースクール」が存在している。

フリースクールと一口に言っても、規模も内容も極めて多様で、通所する子どもが10名に満たないものから、100名を超えるような大規模なものまである。また、活動も子どもの自主性に基づき、スタッフと子どもの間で内容を民主的に決めるものから、一般の学校のようにカリキュラムが設定されているものまで様々である。

そうしたフリースクールの一つが、三重県津市で2003年から活動を続けているNPO法人「フリースクール三重シュレ」である。この三重シュレが入居する津駅前ビルには、三重県遊技業協同組合（以下、三遊協）も入居している。そうした縁もあり、三遊協では三重シュレの開校以来、家賃賃料の全額を継続して助成している。都府県方面遊協が特定のフリースクールを支援するのはレアケースと言えるが、それにより子どもたちが通所しやすい場所でのフリースクールの運営が可能になっている（昨年末の利用者は18名）。



「フリースクール三重シュレ」には県知事（前列中央）も視察に訪れた（三遊協及びシュレの関係者）



設置した災害対応・寄付型自動販売機

貧困家庭の子どもが対象の奨学金や運営資金を支援する自販機の設置

家賃賃料の寄贈のみならず、三遊協では2016年に返済の必要のない全額給付型の奨学金制度「金のハートの奨学金」を創設し、貧困世帯の子どもたちがフリースクールに通うことができるよう貢献している。かねてから子どもの貧困が全国的に問題になっているが、三重シュレに入会を希望しても、家庭の経済的事情で断念せざるを得ない児童や生徒が年10人以上いることを知った三遊協では、学校以外の場所で安心して育つ場所や環境を整えることは社会のニーズであり、それを支援することで組合の社会的責任を果たしたいという思いのもと、奨学金制度を設けることにしたという。

金のハートの奨学金は県内の公立小中学校に在籍する児童生徒が対象で、給付期間は入会から2年間。1年目は入会金15万円と月会費31,500円の全額、2年目は月会費の半額で、総額71万7,000円となっている。初年度は4名、次年度以降は3名を目安に給付対象者が決められてきた。

さらに三遊協では、三重シュレに対する支援の輪を広げ、スクールの運営資金調達の多様化と安定化を図る目的で、昨年、株式会社伊藤園の協力のもと、災害対応・寄付型自動販売機を設置した（現在、3台設置）。この自販機は大規模災害などによる停電時にも無料で商品を取り出せる仕組みになっており、平常時に商品を購入すると、売り上げの一部が三重シュレに寄付されることになっている。災害対策と不登校の子どもたちの支援という二つの目的を同時に果たせる自販機として、今後、さらに台数を増やしていくことが期待されている。昨年11月に行われた自販機設置除幕式、及び奨学金贈呈式には関係者約30名が参加したが、全国紙や地元紙も取材に訪れ、紙面に記事が掲載された。